

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤として、「心の教育」の充実を図り，社会の変化に対応できる徳・体・知の調和のとれた，心身ともに健康で創造力に富む，人間性豊かな児童を育成する。

(2) 具体目標

○仲良く助け合う子（やさしく） ○がまん強くやりぬく子（つよく） ○よく考え進んで学ぶ子（かしこく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

目指す学校像「楽しくいきいきした学校・やさしさのあふれる学校」を達成させるために

児童一人一人が意欲をもって精一杯活躍し，達成感や満足感を十分感じながら豊かな人間力を磨くことが出来る魅力ある学校を全職員で創造していくとともに，保護者や地域の協働のもと学校の教育力の活性化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

人間力の基盤となる「豊かな心」「健康な体」「確かな学力」を達成させるために

(1) 豊かな環境，保護者や地域の教育力や全職員の創意工夫を生かした特色ある教育活動を推進し，魅力ある学校づくりを目指す。

(2) コミュニケーション能力を高め，望ましい人間関係を構築する。思いやりの心や規範意識を高め，人とよりよくかかわりながら活動する環境づくりを行う。

(3) 自ら健康を考え実践する能力を育成する。健康に関心をもたせ，積極的に体づくりや食育を推進する。

(4) 確かな学力の向上を図る。主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫・改善を重ねることにより，基礎学力の確実な定着を図る。

(5) 特別支援教育を踏まえた児童理解や学級経営に努める。

○(6) 小中一貫教育を生かした教育計画の工夫・実践と上河内地域学校園構想と連携した教育活動の実践に努める。

(7) 教育公務員としての使命を自覚するとともに，協働・同僚性を大切にし，教職員としての資質・能力の向上を図る。

(8) 学校における働き方改革に取り組み，勤務時間を意識した働き方を推進する。

[上河内地域学校園教育ビジョン]

かしこく，たくましいゆずっ子の育成

～基本を身につけ，人とつながり，夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

(1) 小学校学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成・改善に努め，教育目標の具現化を図る。

(2) 地域の実態をふまえ，本校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を作り出すようにしていく。

(3) 学校としての指導体制や，学校間やPTA・地域の人々との連携・支援体制を整える。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

・確かな学力と豊かな心の育成を目指し，教職員が互いに高めあうとともに同僚性を大切にした学校経営の推進

【 学 習 指 導 】

・基本を身につけ，生き生きと学び合う児童の育成～学びが実感できる授業の実践と基礎・基本の確実な定着を目指して～

○小中一貫教育カリキュラムの推進や地域学校園としての学習ルール作成

【 児 童 生 徒 指 導 】

・相手の立場に立って考え，人とよりよくかかわることができる児童の育成

○基本的な生活習慣を身につけ，きまりを守って行動する児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

・進んで体力の向上と健康の保持増進に取り組み，目標に向かって努力する児童の育成

○地域の特色を生かした食育の推進

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員・保護者 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上 ⇒教職員・保護者の肯定的回答80%以上	① 授業の中に、効果的に話し合い活動を設定し、協働的な学習活動をととして学習のねらいが深まるように工夫する。 ② 自分の意見を持ち、表現する力を身に付けさせるために、児童が全体の前でスピーチしたり、考えたことを書いたりする機会を意図的に設定する。 ③ 児童が主体的に学習に取り組めるよう、授業のめあてを理解し、見通しをもって学習を進め、振り返りで身に付いたことを確認できるような授業の実践に努める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 96.2%，保護者は 96.1%で指標を上回るとともに、昨年より向上した。特に保護者の肯定的回答は 10%以上向上している。教職員も 100%で指標を達成した。 - 学校課題では、ねらいや振り返りを明確にした授業の実践を図画工作科の研究においても実践し、児童が意欲的に学習し、学びが実感できるよう、授業力の向上を図ることができた。 【次年度の方針】 - 本年度の取り組みを継続して行うとともに、話すスキルや書くスキルも向上するよう意図的に場を設定して取り組んでいく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員・保護者・地域 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 思いやりや助け合いの心を育てられるように、考え、議論する道德教育の充実に努める。 ② 心が豊かになる読書活動の充実に努める。 ③ 人権教育を推進する。 ・人権標語の募集・掲示など人権週間の取組の工夫 ・児童集会の実施 ・いじめゼロ月間の取組 ④ 学級活動の内容を工夫する。 ・エンカウンターなど人間関係づくりのスキルの実践 ・集会活動の工夫・実践	B	【達成状況】 - 児童、保護者、地域、教職員の肯定的回答率は 93.2%，94.4%，100%，100%で指標を達成した。 ①、④授業の実践ができた。 ②朝の読書の時間などを活用し、読書活動の充実に努めることができた。 ③人権について意識して行動している児童の姿が多く見られ、集会の内容なども充実していた。 ③授業の実践ができた。 【次年度の方針】 - 大多数の児童は、思いやりの気持ちが育ってきている。一部の児童への指導・支援を、全職員共通理解のもとに取り組んでいく。 ①②③④を継続して行う。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 「よい子の一日」の内容を意識して生活できるようにするために、重点化した週目標を設定し、定期的に振り返る機会を設け、定着を図る。 ② 児童の週番と教員が話し合って決めた週目標を守るよう指導を繰り返す。また、帰りの会で振り返る場を設け定着を図る。週番は児童と教員が一緒に、週1回校内の巡回を行う。	B	【達成状況】 - 肯定的回答率は、児童 93.2%，教職員 100%で、ともに上回った。 ①「よいこの1日」を定期的に振り返る機会をもつことで、徹底できる機会を設けた。 ②週目標の設定や帰りの会で振り返る場を設け定着を図った。週番による校内巡回により、週番の意識付けができた。 【次年度の方針】 ①「よい子の1日」の重点項目を教室等に掲示するようにする。「よい子の1日」の指導内容について、教師全員同一步調で指導の徹底を図る。 ②は継続して指導していく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員・保護者・地域 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答80%以上	① あいさつ運動について、児童会代表委員や高学年が中心となったもの、地域学校園の中学生と協力したもの、一斉下校時の班単位のものなど、全児童が関わる取組を工夫する。また、あいさつ強化旬間を設けたり、「今週のめあて」に設定したりして、意欲を喚起する。 ② 行事等の学校公開の際や登下校の際にも、保護者や地域の方へもしっかりあいさつができるよう指導の工夫・改善を図る。	B 【達成状況】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答は96.2%、100%、92.2%、100%で指標を達成した。特に保護者は、前年度より13.5%向上している。 ・①校内あいさつ運動、小中一貫教育の取組として、中学生が小学校へ出向いてのあいさつ運動、一斉下校時の班単位のあいさつ活動など、充実した取組を行うことができた。 ・②学級での指導および一斉下校の時にあいさつの大切さを指導したこともあり、あいさつの声が出るようになってきたが、保護者の肯定的回答が下がった。 【次年度の方針】 ・①これまでの取組（代表委員によるあいさつ運動、教職員による取組、児童同士による取組など。）を継続して行う。 ・②を継続して行う。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は96.2%、教職員は100%で指標を上回っている。 ・①学級での指導に加え、友達の善い行いを書いた「ぽかぽかカード」を廊下に掲示するなど、児童が認めあう場を設定した。 ・②持久走では、特に成績が良かった児童を表彰することで、児童の意欲向上を図った。 ・③各学級で取り組んだ。 【次年度の方針】 ・①②③を継続して行う。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員・保護者 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%、保護者は93.5%で指標を上回っている。 ・①感染症や熱中症についてなど、行事や時期に合わせた指導を行い、自ら健康管理をできるよう指導を行った。また、薬物・タバコなど外部講師による出前授業を実施した。 ・②学校栄養士による食育の授業（担任とのT・T）を全学年実施し、児童の発達段階に合わせた食に関する指導を行った。 ・③地震や竜巻等の避難訓練を計画し実施した。 【次年度の方針】 ・①②③を継続して行う。

目 指 す 児 童 の 姿	A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 児童・保護者 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 各学年で育てた作物で調理体験をする東っ子元気祭りを家庭や地域と連携しながら実施し、児童の自主性や社会性を育成する。	A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は96.2%、保護者は87.2%で指標を達成している。 ①学級活動を中心に自らの良さに目を向けさせ夢の実現に向けて取り組もうとする態度を育てた。 ②学校農園や水田で育てた作物を使って地域・家庭・学校が一体となり東っ子元気祭りを行った。 【次年度の方針】 ①これまでの活動に加え、学級活動や総合的な学習の時間において、宮・未来キャリアパスポートの活用を図る。 ②を継続して行う。
	A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 児童会主催のあいさつ週間や水曜日の朝の会で英語のあいさつをする機会を設け、児童が日常生活に英語を使う場を設定してコミュニケーション意欲の向上を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は96.2%、教職員は94.4%で指標を達成した。 ②の取り組みが、児童が日常生活で気軽に英語を使う場になっている。また、放送委員の英語の放送もコミュニケーション意欲の向上に寄与している。 【次年度の方針】 - 本年度の取り組みを継続する。
	A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は83.3%で指標をやや下回った。 【次年度の方針】 - 児童は、上河内地域への愛着を持っているので、宇都宮学を実践しながら上河内も含めて宇都宮の良さに気付ける指導を行う。
	A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒ 肯定的回答85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や学校図書館の環境整備に努める。 ③ 各教科の学習活動に図書や新聞を活用する機会を意図的に設定し、活用能力の向上を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は92.4%、教職員は100%で指標を上回った。 - パソコン室の活用とともに、授業では、デジタル教科書や実物投影機の活用がなされている。 【次年度の方針】 - 本年度の取り組みを継続するとともに、学校の取り組みを各種便り等で保護者にも紹介する。

目 指 す 児 童 の 姿	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 体験活動と関連を図った道德科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2①再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③ 学校行事や各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答は93.2%，教職員は100%で指標を上回っている。 ①授業を実践できた。 ②全教育年間指導計画に基づき、人権教育を計画的に実施することができた。 ③学校行事や授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設けることができ、児童の意識も高まった。 【次年度の方針】 - 大多数の児童は、高齢者への思いやりの気持ちが育ってきている。一部の児童への指導・支援を、全職員共通理解のもとに取り組んでいく。 ①②③を継続して行う。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育や社会科の学習等を通して、環境問題への関心を高め、環境を大切にしようとする意識や態度を育成する。 ② 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例等から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答は89.4%，教職員は88.9%で指標を上回っている。 ①5年生の総合的な学習の時間で、プラスチックの問題や地球温暖化について調べ学習に取り組んだ。 ②竜巻など、県内でも発生した災害を想定した避難訓練を実施した。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
	OB1 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員・保護者・地域 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒肯定的回答80%以上	① いじめゼロ月間・人権週間にほかほか言葉を各学級で設定し、意図的に使うことできちんとした言葉づかいを身に付けさせる。 ② 思いやりの心をもって友達を「さん付け」で呼ぶよう指導したり、「今週のめあて」に設定したりして、児童の意識化を図る。 ③ 相手の気持ちを考えた言葉づかいができるよう道德や学級活動での授業を実践する。また、学校・学年だよりなどを活用して、家庭の協力を依頼する。	B 【達成状況】 - 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答は90.2%，100%，86.5%，100%で指標を達成した。 ①いじめゼロ月間・人権週間などの機会に言葉遣いを意識させることができた。 ②授業中などの場で「～さん」の呼び方ができる児童は多くなっているが、休み時間などには友達の名前を呼び捨てで呼ぶ児童もいた。 ③思いやり・親切、言葉づかいについての授業を実践することができた。 【次年度の方針】 ①具体的な生活場面での機会をとらえて、ほかほか言葉の使い方の確認をしたり、できた児童への称賛を意識したりして、定着を図る。 ②「～さん」の呼び方を引き続き奨励していくとともに、相手を尊重するような呼び方を心がけるよう指導する。 ③継続して指導の徹底を図る。また、学校・学年だよりなどを活用し、保護者への啓発を図る。

	B2 児童は、毎日、早寝・早起きができている。 【数値指標】 全体アンケート 児童「私は、早寝・早起きをしている」 ⇒肯定的回答80%以上 保護者 「学校は、保護者と連携して規則正しい生活習慣の形成に努めている」 ⇒肯定的回答80%以上	① 学校だよりや保健だより、学年だより、PTA学年部会などを通して、保護者に啓発する。 ② 年2回の生活習慣チェックの結果から見られた課題を踏まえて、養護教諭が保健指導を実施する。児童の自己管理能力を高めるとともに、家庭と連携した早寝・早起きの意識付けと生活習慣の定着を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は85.6%で指標を達成し、保護者の肯定的回答は93.6%で指標を大きく上回った。 ①各種便りを通して児童・保護者の意識向上を図った。 ②年2回、生活習慣チェックを実施し、家庭と連携して児童の生活習慣の形成に努めた。 ②の結果を踏まえて、養護教諭が各学年に保健指導を実施した。 【次年度の方針】 ①②を今後も継続して行う。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答は100%で指標を達成した。特別支援学級の児童とともに、通常学級においても、合理的な配慮に伴う指導を行うことができた。 【次年度の方針】 - 校内支援委員会の時期等を見直し、支援について、更により良い話し合いができるようにしていく。 ①②を今後も継続して行う。
目指す	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒肯定的回答90%以上 教職員・保護者・地域 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答80%以上	① いじめ等対策委員会を設置し、定期的な情報共有、組織的な対応に努める。 ② 児童に対し思いやりや助け合いの心を育て、いじめの未然防止に努める。 ③ いじめの実態把握、早期発見・対応のため、生活アンケートや定期教育相談を年2回実施する。 ④ いじめを認識した際は、正確に事実確認を行い、いじめを行った児童に対しては毅然とした指導を行う。 ⑤ いじめを受けた児童の安全確保と、保護者を含め親身な支援を行う。 ⑥ 学年だより、学校だよりなどで、いじめ対策を保護者にPRする。	B	【達成状況】 - 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率は、100%、100%、87.1%、100%で指標を上回った。学校ではいじめの予防に努めるとともに、児童からの訴えには早急に対応し対処した。 【次年度の方針】 - 全教育活動を通して、様々な手立てを講じいじめを発生させないようにする。また、相手を傷つける言動に対して毅然とした態度で指導をする。 - いじめに対しての学校としての方針や取り組みについて、保護者に対しての説明やPRにも力を入れる。 ①②③④⑤について継続して行う。
学校の姿	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う場をつくってくれている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 【A5①再掲】 ② 教育相談、Q-Uアンケート等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は99.2%で指標を上回っている。学校では、児童の自己肯定感を高め、居がいのある学級づくりに努めた。また、教育相談を充実させたり、Q-Uアンケート等の結果を活用して、児童指導に取り組んだりすることができた。 【次年度の方針】 - 児童の自己肯定感を高められるような学級経営に取り組むことで、不登校の発生を未然に防ぐようにする。また、不登校の早期発見に努める。 ①②について継続して行う。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①外国人児童を迎える際には、必要な支援を把握し、情報を共有していく。 ・②外国語活動や道徳などの学習の機会を捉えて、文化の違いなどを認め合える素地を養っていく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「私は、今の学校が好きです」 ⇒肯定的回答85%以上	① 児童の創意を取り入れた主体的活動が展開できるよう、学校行事・児童会活動・縦割り班活動などの活動内容を工夫する。 ② 各担任は、Q-Uアンケートの結果分析をするとともに、事例研究会等を実施し、児童一人一人が存在感のある学級経営を実践するための研修を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答94.7%で指標を十分に達成した。 【次年度の方針】 ・①の諸活動について、積極的に参加する児童の姿が見られたので継続し、さらに活動内容を工夫していく。 ・②SCの勤務に合わせてQ-Uアンケートの事例研究会を引き続き実施する。また、各学級の特色ある学級づくりに関する情報交換をしていく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒肯定的回答80%以上	① ねらいを明確にし、教材教具を効果的に活用しながら、振り返りで学びが実感できるような授業の実践を工夫するとともに授業力の向上に努める。 ② 授業やT・T、習熟度別学習で児童のつまずきの把握に努め、朝の学習や個別指導の充実を図りながら基礎基本の定着を図る。 ③ 身に付けさせる基礎・基本をおさえてつまずきをなくし、分かる授業を展開する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、99.2%で指標を上回った。保護者も90.9%に向上し、指標を上回った。 ・各教科において、ねらいや振り返りを意識した授業実践を継続し、基本の定着に向けた取り組みを継続してきた。 【次年度の方針】 ・①②③を継続して行う。 ・③については、T・Tやかかがきルームの効果的活用、朝の学習時の複数教員による指導の実践などにより、低位の児童の学力の引き上げを工夫する。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 打合せ等により、全教職員が定期的に情報を共有し、具体的な方策を検討し実践する。 ② 学校行事等に、全教職員が個性や能力を生かして共に活動することにより、協働意識を高める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で指標を達成した。 ・小規模校のよさを活かし、情報共有をすることで、チームとして取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・①②を継続して行う。 ・気軽に何でも話せる雰囲気づくりに努め、様々な情報を共有することで、互いに助け合える環境づくりを行う。

目 指 す 学 校 の 姿	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 88.9%で指標を達成した。 ・行事等ごとに行った振り返りを活かして、改善を図ることができた。 【次年度の方針】 ・①ミライムで出退勤管理を行い、各自勤務時間の目標を持って業務に取り組むようにする。 ・②学校行事に関するアンケートを取り、効果的な運営ができるよう改善していく。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上 保護者 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 乗り入れ授業の実施により、それぞれの学校種の教職員の相互理解を深める。 ② 「小中一貫の日」などの研修を活用し、地域学校園の子どもの実態や学校と地域の実態を踏まえた共通の教育活動を工夫する。 (あいさつ運動や冒険活動教室) ③ 義務教育9年間の系統的な指導を見据えて、中学校においても継続的な指導が図れるよう、児童の引継を密に行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.6%，保護者も 90.5%で目標を上回り、指標を達成した。 【次年度の方針】 ・相互乗り入れ授業や共通の教育活動(あいさつ運動や冒険活動教室)を実施した際には、情報交換や振り返りを充実させ、小中教職員や児童生徒の相互理解を深める。 ・児童生徒指導強化連絡会等を活用して、配慮が必要な児童に対する支援方法等について情報提供と共通理解に努める。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 保護者・地域 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。 ② 地域ボランティアや保護者に校外での体験活動時の安全確保や、学校行事・授業への支援などへの協力、参画を得ていく。	B	【達成状況】 ・保護者 94.4%，地域住民 100%と指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・①地域協議会で学校の経営方針等を説明し、学校教育への理解や協力を深めていく。 ・②学校だよりや学年だより、ホームページを通して、学校の情報を積極的に発信し、地域ボランティアや保護者に、学校行事や授業への参画・協力を得ていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 児童 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒肯定的回答85%以上 保護者・地域 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒肯定的回答85%以上	① 外部講師による出前授業や、学習支援ボランティアを活用した授業を積極的に取り入れる。 ② 地域協議会の協力や地域の教育力を取り入れた体験的な活動を積極的に取り入れる。 ・野菜や米作りなどの農作業 ・社会科の地域学習など ・地域の特徴を捉えた防災教育	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は96.2%で指標を達成した。保護者94.4%、地域住民100%と指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・①命の授業、薬物乱用防止教室、ふれあい文化教室などを次年度も積極的に取り入れる。本物から学ぶ機会をできる範囲で計画する。 ・②地域のイチゴ農家の見学などを積極的に取り入れ、地域と連携を図った教育活動を充実させる。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員・保護者 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%、保護者も94.4%で目標を上回り、指標を達成した。 ①②③について適切に計画し、実施している。 【次年度の方針】 ・①②③を継続して行う。 ・引渡し訓練は、受付を設置せず、引取り者が直接担任のところに行くことで、短時間で引渡しができるようにする。 ・常に情報収集に努め、状況に応じて関係者で協議して、適切に対応できるようにしていく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒肯定的回答85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。【A10①再掲】 ② 授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や、学校図書館の環境整備に努める。【A10②再掲】 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92.4%、教職員は100%で指標を上回った。 ・パソコン室の活用とともに、授業では、デジタル教科書や実物投影機の活用がなされている。 【次年度の方針】 ・本年度の取り組みを継続するとともに、学校の取り組みを各種便り等で保護者にも紹介する。
本校の特色・課題等	B3 児童は、縦割り班活動を仲良く行っている。 【数値指標】 全体アンケート 児童・教職員 「児童は、東っ子クラブの活動で、仲良く協力している。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 東っ子クラブによる集団遊びを実践し、異学年交流を進めながら仲良く遊べるようにする。 ② 清掃や集会活動及び東っ子元気祭りなどを縦割り班で実施し、協力して仕事や活動ができるようにする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は97.7%、教職員の肯定的回答も100%と指標を上回った。 ・①縦割り班を使った清掃や収穫祭等において、協力して活動できた。また、集団遊びの実施やスポーツタイムの縄跳び練習では、仲良く遊んだり下級生に優しく接したりする姿が見られた。 【次年度の方針】 ・ロング昼休みを活用した縦割り班での集団遊びの回数を増やす。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け、「自分から あいさつ・けじめ・思いやり」を合言葉に教育活動の充実を図ってきた。また、保護者や地域と協働のもと、羽黒山遠足や米・野菜の栽培、収穫祭等、地域の様々な資源を活用した特色ある学校づくりを目指してきた。

こうした中で、学校マネジメント全体アンケートの結果では、児童・保護者・地域住民の肯定的回答の割合は、市の平均と比較して全般的に高くなっている。児童の評価では「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」100%「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」99.2%が特に高い値であった。保護者の評価では、「児童生徒は、進んで学習に取り組んでいる」「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」について、昨年度の肯定的回答を大きく上回っている。組織的に、協働して教育活動に取り組んできた成果が表れたと受け止めている。また、地域学校園で取り組んでいるあいさつ運動や今年度から始まった「元氣なあいさつ・ていねいな言葉づかい運動の標語」募集の効果もあったと思われる。

しかし、新設された質問「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている」については、保護者の肯定的回答が低くなっている。次年度から市全体の小学校で始まる「宇都宮学」に関わる校内研修を行い、児童の力や意識が高まるようにしていきたい。また「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」「学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。」については、児童や教職員の肯定的回答は高いが、保護者の肯定的回答は72.9%となっている。学校ではタブレット・デジタル教科書・実物投影機等のＩＣＴ機器を使った授業や市立図書館と連携した図書資料の活用を行っているので、保護者の方にも理解していただけるように、情報発信の方法を工夫していきたい。

7 学校関係者評価

令和2年2月18日（火）に、上河内東小地域協議会を開催し、学校関係者評価として意見を求めた。その中で以下のような意見が出された。

- ・子供たちの様子を見てみると、互いに意思疎通が図られ、融和さが感じられる。また、本校では全国的に問題になっているいじめがゼロである。それらのことは、先生方の指導の賜物だと思われる。
- ・行事での児童の姿を見て、特に校歌を歌う姿に感動した。児童数ではないと感じた。児童はよくまとまっているので、更に伸ばして行ってほしい。
- ・地域で子供を育てることは、とても大切である。地域では梵天祭りやどんど焼き等の伝統行事を地域で行っているが、行事の意味を調べていくことも勉強になるのではないかな。今後も地域と学校で連携していきたいと思う。
- ・子供たちは、地域でもよくあいさつをしている。
- ・ＩＣＴ機器の活用について、授業参観の際に見せてもらえるとよいと思う。
- ・学校は、いじめだけでなく様々な問題がある中で、本校の不登校ゼロはすばらしいと思う。
- ・マネジメントの質問項目が多いので、項目数を減らして、よく見られるようにしてはどうか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、昨年度の評価や市内の小学校の平均と比較しても良い評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様から寄せられた御意見を真摯に受け止め、次年度の方策について検討していく。

【学校運営】

- ・全体的に児童は落ち着いて学校生活を送っており、学校運営が概ね良好に行われていると考えられる。
- ・本校ならではの豊かな環境や地域人材を生かした特色ある教育活動を推進していく。
- ・各種便りや学校ホームページ、授業参観等による情報発信を積極的に行い、地域とともにある学校づくりに努めていく。

【学習指導】

- ・「ねらい」と「振り返り」を明確にした分かる授業を展開するとともに、朝の学習を中心として基礎基本の定着を図る。
- ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、教員の指導力向上をめざしていく。
- ・3年生以上で始まる「宇都宮学」の授業を通して、郷土への愛情を育めるような指導の工夫をしていく。

【児童生徒指導】

- きまりを守って行動することや、その場にふさわしい言葉づかいができることについて、継続的な指導を推進していく。
- 地域学校園でのあいさつ運動やあいさつの標語作り等を通して、進んで明るいあいさつができる児童の育成を継続していく。
- ・情報交換の機会を十分確保し、支援を必要とする児童への対応を組織的に推進していけるようにする。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 粘り強く取り組む気持ちや持久力の向上をめざし、「走る」運動の強化を行うとともに、その伸びを計画的に評価していく。
- ・教育相談やいじめゼロ集会、縦割り班活動等を通して、よりよい人間関係をつくり、充実した学校生活が送れるような支援を行い、いじめ予防に取り組んでいく。